

やさしく見守る



気づきのポイント!

- 「^{めいわく}まわりに迷惑をかけているのでは」と、^{かん}プレッシャーを感じている人もいます。
- ^{みまも}そっと見守るだけで、^{たす}助けになることがあります。

事例 こんなとき、どうする?

様子がちょっと違う?
ひとりごとや駅のアナウンスをまねている人がいます。

パニックを起こしている
座り込んだり、声をあげたりしている人がいます。

子どもが泣いている
「お腹が空いた」「眠い」などの理由でも、子どもは泣くことがあります。

- ジロジロみたり、迷惑そうな表情をせず、やさしく見守ります。



私にできる
ちょっとしたこと

- 直接本人に声をかけるのは控えましょう。声をかけると、さらにパニックが長引いてしまう場合があります。
- 介助者がいる場合は、「大丈夫ですか?」と声かけすると焦る気持ちが楽になります。

- 子どもが泣くのは、当たり前なこと。子育てを、やさしく見守る雰囲気がいいですね!



うちの子もよく泣いたのよ〜

ま^なちは、泣^こきやま^おない子^こどもや、大^おきな声^こを出^だしながら
座^すり込^こんでしま^おうなどのパ^おニックを起^おこしてしま^おう人^{ひと}もいま^おす。
配^{はい}慮^りや対^{たい}応^{おう}は、ど^おのよ^おうに^おし^おたら^おい^おで^おしょう^おか?

事例 先入観をなくして接する

つくりっこの家では、障害のある人だけでなく、地域に住むさまざまな立場の人たちが、それぞれの持ち味を生かしあって、ともに生きる関係をつくっています。

障害者は「してもらおう」、ボランティアは「してあげる」という一方的な関係をなくすため、いくつかの工夫をしています。

たとえば、名称です。つくりっこの家では、Aメンバー(統合失調症を中心とする「障害」がすでにある人)、Cメンバー(地域の主婦たちを中心とする「障害」がまだない人)という呼び方をしています。

また、代表の明星マサさんは、新たにボランティアとして参加する人がいるとき、「精神障害とはこんな特徴がある」などの説明はせず、「一人の人として対応してください」とだけ伝えるそうです。「精神障害のある人は、先入観なく対応して欲しいと願っています。ここでは、普段どおりの人と人のおつきあいをしています。もし、トラブルになっても、話し合いをして解決の道を探ります」と言います。

さまざまな方への配慮や対応を考えると、参考となる取組です。

社会福祉法人
つくりっこの家

「障害」の有無・年齢をこえて人と人が出会いふれあう場所です。そしてそれぞれが持ち味を生かし合い分かち合い、支え合う関係をつくっていかようとしています。
就労継続支援B型「つくりっこの家クラブハウス」、共同生活援助「みなとや」の運営をしています。



地域のイベントにバザーで出店

ワークショップで出された声



区民ワークショップの中で参加者の共感が得られたのは、「あったか目線」ということばです。障害のあるお子さんと出かけるときに、家族は「まわりからの冷たい視線にさらされている」と感じ、とても辛い思いをしています。

多様な人を受け入れる普通の視線、普通のあいさつ、目があったらニコッ! この「あったか目線」が地域で暮らしていく上で大切ではないでしょうか。

